

かめのり大学院留学アジア奨学生

月次報告レポート

(2017年11月)

・研究について

十一月の末に、法政大学国際日本合同演習で博士一、二年生の間接報告が行われました。私は博論の構想及びその進展について発表したもので、その内容を報告させていただきたいと思えます。

『平家物語』諸本における中国文学の様相について、博士論文は凡そ五章に分けて論じたいのです。序章では、まずは今までの『平家物語』における漢籍の受容状況についての先行研究及び疑問点を整理し、研究の問題を提起するなどの作業を行います。第一章から第五章までは『平家物語』諸本における漢籍についての問題を具体的に論述したいです。中には、第一章と第二章と第五章の研究内容は去年と比べて、対して変わっていません。第一章では、修士論文に加筆し、『平家物語』における「娥皇女英」説話についてさらに深く論じたいです。第二章では、『平家物語』における『白氏文集』の受容について研究したいです。第五章では、出典不明な箇所再検討を行います。最後の終章では、各章で得た成果をまとめます。今度は博論の第三章と第四章の新構想を詳しく紹介したいです。

第三章 『平家物語』における『後漢書』の受容について（調査中）

『平家物語』においては、『史記』『漢書』をはじめ、多くの歴史書が引用されています。『後漢書』は南朝宋の范曄が撰した歴史書であり、早くも『続日本紀』に『史記』『漢書』と並び、三史の一つと記されています。従来の研究によると、確かに『平家物語』に影響を与えたが、直接引用されたかどうかは明らかではないとされています。調査したところ、源平盛衰記と延慶本に『後漢書』に拠った箇所が見られます。第三章では、『平家物語』がどのように『後漢書』を引用したかについて研究したいです。

第四章 『平家物語』における和書から引用した漢文について（調査中）

黒田彰の「蘇武覚書——中世史記の世界から」（『中世説話の文学史的環境』和泉書院 一九九五年）に指摘された通り、『平家物語』には漢文や中国説話を引用する際、蘇武譚や始皇帝譚などのような、和製の類書などに依拠した箇所が数多くあります。『平家物語』編者は従来知られている和製類書のほかにも参照した書物があるかどうか、第四章ではこの問題を検討していきます。

終章

終章では、第一章から第五章まで得た結論をまとめます。『平家物語』において、中国の説話・漢詩・歴史書はいかに受容されていたのかについて分析します。さらには、『平家物語』編者の漢文学素養及び中世の日本における中国文学の受容状況について分析したいです。